

イ 巡回相談委員

(◎印委員長)

| 氏名 | 役職名 | 備考 |
|--------|--------------|----|
| 庄司 他人男 | 福島大学教育学部教授 | ◎ |
| 小森 澄 憲 | 郡山女子短期大学部教授 | |
| 渡辺 俊 彦 | 福島女子短期大学助教授 | |
| 河野 義 章 | 福島大学教育学部助教授 | |
| 林 偕 子 | 郡山女子短期大学部助教授 | |
| 樋口 勝 也 | 桜の聖母短期大学助教授 | |
| 加藤 一 夫 | 福島県立医科大学講師 | |
| 松崎 博 文 | 福島大学教育学部講師 | |
| 山脇 道 子 | 福島市立野田保育所長 | |
| 橋本 タ ツ | 郡山市立鶴見担保保育所長 | |

なお、企画運営委員である西久保委員は、はがき通信委員もかねる。

ウ 巡回相談会場参加者

相談者 391名 (個別相談者数 146名)

エ 巡回市町村

川俣町・本宮町・長沼町・石川町・郡山市・表郷村・塙町・富岡町・柳津町・新鶴村・河東町・伊南村・館岩村・双葉町・いわき市 (小名浜公民館・常磐公民館)

④ 4・5歳児の家庭教育手引書の配布

県内4歳児をもつ親を対象に、「すこやかな成長をねがって」を家庭教育資料として配布した。

4 家庭教育総合推進事業

(1) 趣 旨

家庭をとりまく経済社会状況が変化し、青少年の問題行動が増加する中で、今日の家庭教育の課題に対処するため、総合的な観点から家庭教育の充実方策を推進する。

(2) 実施主体 福島県教育委員会

(3) 実施時期 昭和60年5月～昭和61年3月

(4) 研究主題 「現代社会における家庭教育」

—— 子どもの課題・親の課題 ——

(5) 事業の内容及び方法

① 企画推進委員会の設置

ア 企画推進委員会は、全県的な視野で研究主題をとり上げ、分析検討する。

イ 委員会は研究主題に即して、これまでの成果をとりまとめ、家庭教育指導資料を作成する。

ウ 企画推進委員

(◎印委員長)

| 氏名 | 役職名 | 備考 |
|---------|-----------------|----|
| 菊池 章 夫 | 福島大学教育学部教授 | ◎ |
| 徳田 安 俊 | 福島大学教育学部教授 | |
| 佐々木 篤 信 | 福島県立会津短期大学助教授 | |
| 小森 澄 憲 | 郡山女子短期大学部教授 | |
| 八島 祐 子 | 福島県立医科大学助教授 | |
| 国井 庄 八 | 福島県PTA連合会会長 | |
| 阿部 和 男 | 福島市中央公民館長 | |
| 海野 清 瀬 | 福島県婦人団体連合会事務局長 | |
| 松本 恒 雄 | 福島県教育庁義務教育課主幹 | |
| 坂本 善 一 | 福島県教育センター教育相談係長 | |

② 家庭教育指導者研究協議会の開催

ア 研究主題にもとづき今後の家庭教育のあり方について協議した。

イ 家庭教育指導者研究協議会の実施

| 期 日 | 会 場 | 参 加 者 |
|-----------|------------|-------|
| 11 月 7 日 | 磐梯町中央公民館 | 170名 |
| 11 月 20 日 | 平田村中央公民館 | 220名 |
| 11 月 28 日 | いわき市小名浜公民館 | 257名 |

③ 家庭教育指導資料の配布

ア 家庭教育指導者研究協議会・家庭教育研究集会の資料として活用する。

イ 市町村教育委員会、小・中学校に配布し、家庭教育、学級等での活用を図る。

④ 家庭教育電話相談の開設

ア 家庭教育電話相談の開設

「すすくすくダイヤル」(0245) 53-8222

イ 対 象 主として青少年及びその保護者等

ウ 開設時期・開設曜日

開設期間 昭和60年4月～昭和61年3月

開設曜日・時間 (月) 9:30～15:30

(水) 9:30～15:30

(金) 9:30～12:30

エ 電話相談件数 (昭和60年4月～昭和61年3月)

361件 (1日平均2.5件)

オ 主な相談内容 (多い順から)

1位 育児・保育に関すること

2位 健康・発育に関すること

3位 しつけに関すること

4位 性格行動に関すること

5位 対人交遊に関すること

6位 登校拒否に関すること

7位 いじめに関すること

8位 進路に関すること

9位 知能ことばに関すること

10位 学業成績に関すること

第6節 公民館等社会教育施設

1 概 要

生涯教育の振興のためには、その活動の場となる公民館等社会教育施設の整備・充実を図る必要があり、その計画的な整備及び運営の効率化を図るよう努めた。